グループ名　箕面自由学園防災課
タイトル　被災地が語った自主防災

登場人物

A･･･男子高校生

B･･･男子高校生

C･･･女子高校生

D･･･女子高校生

ナレ･･･ナレーション

取材に協力して下さった方々

放送部員

A:じゃあ企画会議始めんで～。今年の防災ラジオドラマやけど、どのテーマで始める？

B:これさ、俺らの所第一回から参加してるけど、いっつも学校の中で終わってへん？

C:あー、でも去年は子供会とコラボしたやん。

D:あのさぁ、取材行ってみぃひん？

B:どこ？

D:東北。

がやがや

C:どうやって行くん？

D:嫌？

A:ええけど、なんか俺らみたいな高校生が勝手に行ってもええんかなぁ。

D:学校に交渉してみよ！岩手県には大阪の公務員さんがたくさん支援に行ってるらしいねんな。震災からもうすぐ三年やん。大阪はあんまり災害ないから、どうしても机の上やデータ整理だけの活動になってて現場がわからへんねんよな。

C:…行ってみる？

A:よし。テスト休みの三日間、取材旅行や！

ナレ：私たち放送部は10月のある日岩手県大船渡市を訪れ、海の近くの高台にある赤崎公民館の館長さんにお話を伺いました。

近野：はい、、どうもみなさん、ごくろうさまでございます。

放送部員：お願いします

近野：赤崎地区公民館長の近野でございます。今日は本当にありがとうございました。

放送部員：ありがとうございました

近野：あの～被災地は、被災地は当初は食べるものがない着るものがないっていうことでそういうものが必要とされていたのですが、え～その後、時間の経過と共に暮らすところがない、生活を再建できないというそういう焦りに変わってきています

近野：あの～ここのところに最大でだいたい350名ぐらいの人が避難してきました。

近野：ここの島の状況ですが大船渡の市全体では死者行方不明をふくみまして421名が亡くなっているわけですな。ここのところでは死者45名、行方不明が2名、計47名の人が亡くなっています。

ナレ：赤崎公民館では予想以上の人が避難して来たため、一人あたり畳一畳足らずの面積しかなく、自衛隊が来るまでの数日間、地域の沢の水や自主防災の食料で耐え忍んだそうです。

東北の方A：ただね、普段使ってないんで自分ね寒い寒いとにかく寒い

東北の方B：いずれあの晩はずっと外にいたもんね余震あるし

東北の方A：そうすっと俺は良かったのかなぁ、結構俺の車大きいから車で出てったさぁ

東北の方B：まぁストーブ、薪ストーブ、佐々木家の長屋から引っぱりだしてきて

東北の方B:で、辛抱さ。ただ、風でてきたから、
畑はほら、佐々木家の隣、家建ててあったんですよ。で大工さんが三人いたんですよ。その人といろんな、ほら、余った木などで、こう、バリケード作ってね

ナレ:避難所へ行けないお年寄りは近所の人同士でコミュニティーをつくり、自活を始めました。

B:ここまでみずが来たんやな。

A:おおん

B:この土地の人たちはつながりがあったから助け合えたけど、大阪やったら無理やったやろうな。

ブリッジ

ナレ:それから私たちは当日津波で流された、河合さんのお話を伺いました。家族を助けようと、海沿いに向かった河合さんは川の橋の上で警察官に足止めをされました。みるみるうちに川の水位は上がったそうです。

河合さん:走って振り返ったらば、うん、波が来てて、でまあ、うん、止まったら意味が無いかなあと思って、走って走って走ったんだけど、結局男の人達だったらもう走ってビュンって建物の上の方に上がってたんだけど、やっぱり私とか、あと、おばあさん、私よりもっと上のご年配の方々はもう走れなくて気づいたら周りはもう、海の水もうほんとに茶色いなんかゴミの混ざってるような水に囲まれてああもうだめなんだ、思って、でもでもここで踏ん張ったらもしかしたらできるかな、思ってその場で足をこう頑張って踏ん張って立ってたんだけどでもやっぱりすごく津波のその水の速さがすごくてもう一瞬のうちになんか自分でもどう流されたかもわかんないけど。
なんかあっという間の事で流されてるときとか無知だった。津波に対して無知だった。自分自身が小さい頃からこう、津波が多い地域だったから、津波の学習とか資料とか見てきてたはずなんだけど、まさか自分が生きてるときに津波なんて来るって思わなかったから。

D:今日さいろんな人に話聞いたけど、日頃からみんなちゃんと備えててんな。

C:河合さんのお父さんも言ってたやんな。地域の人みんな兄弟みたいやから勝手に家開

けて布団とか出したって。

河合さん父：どこでなにがあるかわかんねえべ。まったくわかんねぇ。だって地震だって津波だったってこう助かったんだけど、今晩ここでまあ、嫌な話だけど今晩ここでまあ火災がないとも限らないわけだからやっぱり安全と安心は自分でこう、確認して自分でこう手に入れる物だと思う。当たり前にある物ではないと思うんですね。

C：うちショックやった

B：大船渡の人達、津波の時どうしたらいいかちゃんと知ってて、考えて行動してたのにまだ甘かったってみなさん話してたなあ。

A：地域での自主防災って俺全然考えてへんかったわ。

BGM開始

C：国とか大阪とか学校とか、お父さんやお母さんとか誰かがなんとかしてくれるってなんかそう思ってた。

D：テレビとかで偉い人や先生とかに言われても、何も思わんかったけど、うちここ来てよかった。

A：俺、この取材ドラマにしてみるわ。館長さんのあの言葉、みんなに聴いてほしいんや。

放送部員全員：安全と安心は自分で確認して、自分で手に入れるもの。

BGM終了